

大項目	第4 財務内容の改善に関する目標を達成するため取るべき措置
中項目	1 経営基盤の維持と経営機能の強化

(参考)年度評価	H29(2017)年度	H30(2018)年度	R元(2019)年度
評価者	評価委員会		市長
大項目評価	B	A	

◆中期計画指標(中期目標期間における各事業年度の実績)

		H29(2017)年度実績値	H30(2018)年度実績値	R1(2019)年度実績値	R2(2020)年度目標値	R1(2019)年度時点達成率(%)
1	経常収支比率(%)	104.1	106.4	105.3	103.1	102%
2	医業収支比率(%)	96.1	99.0	99.6	97.0	103%
3	中期目標期間中の累計の経常収支比率(%)			105.3	102.3	103%

中期目標の記載内容(小項目毎)	中期計画の記載内容	中期目標の期間終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績
公的病院としての使命を果たすため、健全で安定した経営基盤を確保し経常収支の均衡を図るとともに、適切な業務分析の実践とそれに基づく経営に関する企画立案機能の強化を図ること。	急性期医療や救急医療等を担いながら、単年度収支の黒字化と中期計画期間中の資金収支の改善に努める。 また、政策医療における運営費負担金については、市と協議し適切な金額を受け入れる。	新病院建設と連動した経営改善の効果が着実な成果として表れ、医業収支比率・経常収支比率ともに目標値を大幅に上回り、経営基盤(自己資本比率)、資金確保(流動比率)ともに、経営安定のための一定のレベルに到達することが出来た。令和2年度は、コロナウィルスの景況により、厳しい収支が予想されるが、引き続き経営強化を図り、中期目標達成を目指す。

次期に向けた課題	独法化後、新病院への移転期間も含め、経常収支の均衡(黒字化)を継続し、経営安定化の目安である一定の経営基盤と資金残高を達成した。今後は、収益と費用のバランスを考慮した病院運営を行い、常に地域に安全安心な医療を安定的に提供できる体制を維持すること必要。発展から持続への転換時期への対応が課題である。
----------	--

法人の自己評価	B	評価理由	新病院建設と連動した経営改善の効果が着実な成果として表れ、平成29年度～令和元年度までの3か年間は、全ての指標ともに目標値を大幅に上回り、良好な数値となっている。しかしながら、最終年度である令和2年度は、コロナウィルスの影響により収支の大幅な悪化が予想され、年間の収支悪化の幅を最大限に見込んだ場合、中期計画期間の累計の経常収支比率は、目標値程度になると見込まれる。
---------	---	------	---



評価委員会の評価		評価理由等	
----------	--	-------	--

中項目	2 収益の確保と費用の削減
-----	---------------

(1)収益の確保		H29(2017) 年度 実績値	H30(2018) 年度 実績値	R1(2019) 年度 実績値	R2(2020) 年度 目標値	R1(2019) 年度時点 達成率(%)
1	入院患者数(人)	93,538	101,742	106,300	98,550	108%
2	入院診療単価(円)	54,722	56,963	59,128	56,040	106%
3	病床稼働率(%)	85.4	92.9	96.8	90.0	108%
4	平均在院日数(日)	12.1	12.4	12.0	10.1	84%
5	外来患者数(人)	159,050	161,755	166,369	150,000	111%
6	外来診療単価(円)	12,656	12,645	13,347	12,100	110%
(2)費用の削減		H29(2017) 年度 実績値	H30(2018) 年度 実績値	R1(2019) 年度 実績値	R2(2020) 年度 目標値	R1(2019) 年度時点 達成率(%)
1	材料費対医業収益比率(%)	20.6	20.3	21.7	18.9	87%
2	経費対医業収益比率(%)	14.0	14.5	14.3	13.6	95%
3	人材費対医業収益比率(%)	58.0	56.1	55.1	59.7	108%

中期目標の記載内容(小項目毎)	中期計画の記載内容	中期目標の期間終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績
(1)収益の確保 病床稼働率の上昇や診療報酬の改定等への的確な対応により収益を確保するとともに、査定減等の防止、未収金の防止対策に努めること。	救急患者及び紹介患者を確実に受け入れて新入院患者の増加を図り、後方病院との連携の円滑化による平均在院日数の短縮及び診療単価の向上に努める。また、適切な施設基準等の取得や診療報酬の請求体制の強化及び未収金の防止対策にも努める。	診療単価の向上と患者数の増加を継続的な課題と考え、診療レベルの向上に取り組んだ。入院診療では、断らない救急医対応の強化と平均在院日数の短縮化、外来診療では、紹介率向上や患者満足度の強化に取り組んだ結果、ほぼ全ての指標で目標値を上回る状況となっており、令和2年度も、引き続き中期目標達成を目指す。
(2)費用の削減 全職員がコスト意識を持って、在庫管理や購入方法等の見直しなど、経費削減に努めること。	材料等物品の在庫管理体制の強化、院内委員会等を開催し物品購入や委託業務等の契約の見直し等を行い、経費節減への対応を図る。	営業費用全体において、予算査定と実際の支出の際の検証を通し、常に費用対効果への強い拘りを持ちながら、削減に努めた。給与費については、患者数の増加に見合った計画的な増員により大幅な増額となったが、十分な労働生産性を発揮し、給与費増を上回る収益増となった結果、比率は目標値を達成した。材料費は、目標未達成ではあるが、手術数等が増加し、診療単価が目標値を大幅に上回ったことが原因であり、他の独法病院と比較して、良好なレベルにある。令和2年度も、引き続き削減に努める。

次期に向けた課題	第一、二期中期計画期間での、あれもこれも様々な取り組みを実施した結果、診療単価の向上と患者数の増加という目標に対し、標準以上の一定のレベルに到達したと考える。今後、地域の中核病院としての役割を維持しながら、更なる収益向上や経費削減を目指すための取り組みとして、評価委員会で指摘された集中と選択の考え方をどのように計画するべきかが課題である。
----------	--

法人の自己評価	B	評価理由	収益の確保、費用の削減ともに、経営努力が着実な成果として表れ、計画3年目の令和元年度では、概ね目標値を上回り、他の類似病院等と比較しても、良好な数値となっている。しかしながら、最終年度である令和2年度は、コロナウィルスの影響により収支の大幅な悪化が予想され、年間の収支悪化の幅を最大限に見込んだ場合、最終年度の数値では、目標未達成の項目が複数発生する可能性がある。
---------	---	------	--



評価委員会の評価		評価理由等	
----------	--	-------	--